

9/27 地熱の利用法を学習 温泉利用協同組合が地熱の研修

洞 爺湖温泉利用協同組合（若狭洋市代表理事）の洞爺湖町等初任者現地研修が金比羅地区で行われ、観光関係者や町職員が同地区内のKHI―1地熱発電所を見学しました。

組合の四宮博専務理事が地熱発電による二酸化炭素排出削減効果などを解説。環境への配慮以外にも、高温の熱水を使ったゆでたまごなど新たな観光向け商品の開発にも地熱発電が貢献していることを説き、参加者は地熱発電の有用性を学びました。



地熱発電所を見学する参加者

9/27 体育館で頭脳戦 フロアカーリング交流会開催

ウ イメンズネットワーク湖（青木佐智子代表）のフロアカーリング交流会が、あぶた母と子の館で行われました。28人が参加し、6チームに別れてゲームを行いました。カーリングのストーンにあたる「フロッカー」という器具を滑らせ、よりターゲットに近づけた人が得点するルール。参加者は相手のフロッカーを避けてターゲットを狙えるよう一投に集中しながら、交流を楽しんでいました。



楽しみながら勝敗を競ったフロアカーリング交流会

10/6 自然災害の猛威に備えて 虻田高で1日防災学校

虻 田高校（千葉佳貴校長）で1日防災学校が行われました。大規模自然災害に備えて生徒にも防災を学んでもらうため、町の担当者が段ボールベッドの組立て方などを解説しました。

生徒たちは、段ボール箱を組み合わせてベッドを設置し、実際に寝心地を確かめました。プライバシーを確保するためにベッド周辺のパーテーションも立てながら、避難所での生活に必要な配置を考えていました。



段ボールベッドを設置する生徒

9/28 財田米の魅力をアピール 財田米ブランド推進委員会がPR事業展開

財 田、川東地区の米農家でつくる財田米ブランド推進委員会（塩田満会長）が、新たなPR事業を展開するにあたり町に報告に訪れました。委員会は、道の交付金を活用してパンフレットなどを作成したほか、ホームページも開設しました。

塩田会長は「財田米のおいしさを多くの人に知ってほしいです」と意気込みを語り、下道町長は「町のイメージアップにもつながります」とエールを送りました。



財田米のPRに取り組む塩田会長（左）と下道町長

10/14

姉妹都市の生徒と交流 虻田中、洞爺中と箱根中がオンライン交流

虻 田中学校、洞爺中学校と、町の姉妹都市・神奈川県箱根町の箱根中学校の生徒がオンライン交流しました。

虻田中、洞爺中の生徒会メンバーが参加。インターネットに接続したパソコンの前で自己紹介し、入江・高砂貝塚や有珠山噴火など町の文化や自然について説明しました。

箱根町の生徒も町の文化などをユーモアを交えて紹介し、お互いの故郷について理解を深めていました。



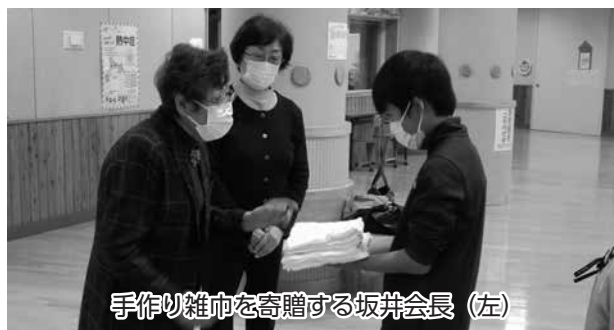
箱根中とオンライン交流する洞爺湖町の生徒

10/11

校舎をいつでも清潔に ななかまどの会が児童に雑巾寄贈

洞 爺湖町ボランティアサークル「ななかまどの会」（坂井千枝会長）が、洞爺湖温泉小学校（柴田暦章校長）に雑巾50枚を寄贈しました。

同会は、手作りの雑巾などを町内の小中学校に寄贈する活動を行っています。会員が学校を訪れ、手縫いで用意した雑巾を手渡しました。坂井会長は「校舎の掃除で使ってください」と呼び掛け、児童は「ありがとうございます」と感謝していました。



手作り雑巾を寄贈する坂井会長（左）

10/27

景観保全のボランティアに汗 高橋建設が浮見堂の石碑を補修

高 橋建設（高橋哲也社長）が浮見堂公園内の石碑を補修するボランティア活動を行いました。この石碑は1979年に建立され、長年の風雨で土台がひどく傷んでいました。

同社の社員のほか室蘭開発建設部などから約10人が参加。コンクリートがはく離れた土台をモルタルで埋めて補修しました。同社の担当者は「コロナ禍が収束してこの地を訪れてくれる人に美しい景観を楽しんでもほしいです」と話していました。



石碑を補修するボランティア参加者

10/24

有珠山噴火の仕組みを学習 洞爺湖温泉小で防災教室

洞 爺湖温泉小学校（柴田暦章校長）で防災教室が行われました。洞爺湖有珠山マイスターが、1977年の有珠山噴火で小学生が犠牲になり、かつて同校があった洞爺湖温泉も大きな被害を受けた歴史を解説。「噴火はいつ、どこで起きるか分からないので普段から備えを忘れないで」と呼び掛けました。

洗面洗濯室やステージを収納できる体育館など避難所としての同校の設備も見学し、防災についての知識を学びました。



噴火について学ぶ児童